

今回、私がこの東京方面企業大学研修に参加したのは、自分の進路をまだあまり考えられずにいて、そのきっかけをつくるためだった。

東京研修で、まずはじめに行ったのはディレクトフォースだった。最初に聞いた近藤玄大さんによる講演『『ものがたり』としてのものづくり』では、たくさんの経験をされてきたからこそ出てくる言葉がとても印象深かった。中でも私が印象に残っている言葉は「今までの常識とちがうことをすることに抵抗はなく、それはあくまで自然の流れであって、徐々に自信がついてくる」というものだ。近藤さんは東大を卒業後、ソニーに入社したのち、義手開発の会社を企業しソニーを退社、最近再びソニーに入社するという若いながらも多くのことに挑戦し、経験されてきた方だ。義手開発においては従来つくられてきた障害を隠す義手ではなく、個性を表現する義手という今までの常識を覆すような開発もされてきた。私であれば、起業するとなったり今までとは全く異なる開発をするとなったり、そこへ踏み出す勇気が出ず、やはり抵抗を感じてしまうように思える。しかし、近藤さんの言葉のように自然の流れであると考えれば、抵抗をあまり感じずに多くのことに挑戦できると思う。私もこの言葉を胸に刻み、挑戦することのためにためらわないようにしていきたい。

グループセッションでも近藤さんには話を聞くことができ、「いろんな仲間と全力で部活・行事など、やり切ったと思えることを」という言葉も心に残っている。また他の2人からもいろいろな言葉をいただいた。

菅原信夫さんは高校1年と商社にいる時にアメリカに留学されているため、留学の話を中心に聞くことができた。日本と海外の体制や感覚の違いを感じた体験談や留学をするタイミングなどを教えていただいた。土居義範さんは笹川平和財団の方で、アジアの少子高齢化などについて解決策を提言するという仕事をなさっている。「世界をどれだけ良くできるか」「自分のできること、やりたいこと、やる価値のある事は何か」を仕事の中で意識しているとおっしゃっていて、社会貢献への意識の高さに驚いた。社会貢献についての話の中では自分の利益も考えなければならないとおっしゃっていて、「多様な視点から見ること」が大切だとも話していただいた。

最後に3人すべての方が共通しておっしゃっていた「今の私たちがすべき事は勉強する習慣」だということもしっかりと胸に刻みたいと思う。

ディレクトフォースのあと、私たちの班は企業訪問として順天堂大学天野篤教授を訪れた。天野教授は天皇のバイパス手術の執刀医であり、実績の高い外科医である。私が企業訪問先として天野教授を選ばせてもらったのは、将来の選択肢として医療に携わることを考えており、志望する分野などは全く決まっていないが、その中でも豊富な手術経験を持つ天野教授の話を聞くことで医療に携わると言うことが鮮明になると考えたからだった。

まず最初に私たちが大学を訪れたとき、天野教授は手術中で顔を合わせたのは到着から

30分以上過ぎたころだった。話を聞く前から、医者と言う職業のハードな日程、仕事の重さを現実的に感じるとともに、それを行っている教授に話を聞くことに好奇心を持ちながらも緊張していた。

まず聞いたのはやはり医学部に入るための勉強についての話である。天野教授にはルーティーンと言えるものが基本的にないとおっしゃっていた。教授がおっしゃるには「ルーティーンをせずに勉強に入れるのがベスト」だそうで、つまり勉強を日ごろからする習慣が大切だとだそう。これはディレクトフォースでも聞いたものであり、私たちにとって最も重要なことであるにちがいないと思った。また天野教授が今のうちに私たちが身に付けておくべき力として挙げたのは「体力」である。それには2つの理由があった。仕事は長時間になることもあるので体力がなければならぬと言うのが一つである。もう一つは、体力を鍛えるのには何らかの目的があり、その目標に向かって努力をするということが大切であるから、ということだ。このように体力を鍛える事は心身ともに鍛えることができるということを教えていただいた。また勉強以外でも役に立つ力として、「瞬間で思い出せるように物事をパターン化する力、つまり複雑なものを簡単なものに置き換える力」を話していただいた。この力を身に付けることで、すばやくかつ正確な判断ができるようになり、自身の手術の中でもこのような力が大切だと感じているそう。他にもたくさんのお話を聞くことができ、話の最中にモニターに映されていた手術をしていたのは、子供を持つお母さん医師だと説明され、医師と言うと男性の割合が高く、特に外科医で女医の方のイメージがなかったので、自分の中では小さな衝撃だった。また病院内は常に緊張感があり、普段では関係者しか入れないような場所も出入りさせていただき、医療の仕事を肌で感じる事ができたと思う。この企業訪問は二度とできない貴重な体験となった。

夕食後のOB・OG座談会ではこれまでの企画と比べて私たちと比較的年齢の近い方から話を聞くことができたので、とても身近な話をする事ができた。部活があるときの勉強方法、引退した後の受験勉強、東大の進学振り決め、それぞれの大学の専門分野の話など、いろいろな角度から教えていただいた。中には自身の浪人した失敗談を話してくださったOBの方もいて、近い距離で現実的な話を聞くことができた。

東京研修の最後は東京大学訪問。OB・OG座談会で何度も出てきたため、東大の「進振り」と言う仕組みが少しばかりではあるが気になっていた。特に個別相談会では進振りの話を詳しく聞くことができ、大学の学問と高校の勉強は異なるため、大学の学問を経験してから選択できるのが魅力であると教えていただいた。また私たちの進路選択のためのグループ活動をしたことで、自分のやりたいことやそれに向かっていくためにすべきことが明確になり、深く進路について考えるきっかけになった。東大訪問では進路を考えることができたことに加え、大学の施設やその研究の様子を知ることができたのも大きな経験であった。大学の中にはたくさんの研究室があり、様々な研究をしていて、自分のやりたい研究を選択できるのが高校との大きな違いだと思った。私は理系の研究室を見学したが、

中には電子レンジや電気ポットを置いている研究グループがあり、家に帰らずに緊急することもあるということに驚いた。また、薬品や器具の種類や数の多さ、徹底された室温の管理は日本一の大学だからこそであり、世界と競うような研究をしているということが伝わってきた。東大訪問で盛んのサークル活動等の話も聞くことができ、当然のイメージは私の中で少なからず変わったと言えると思う。

今回の東京研修は確実に自分の進路を考えるきっかけになったのではないかと思う。高校受験とは違い、大学の選択肢はあまりにも多く、特に学部まで決めるとなると本当に私がしたいことは何か、またそのためには何をすべきかということがこの研修まで分からずにいた。東京研修でおこなった4つの企画を通して自分が将来やりたい職業、進学したい学部を具体的に考えることができた。また、その目標に向けた勉強の仕方、社会で生きていくときに大切なこと、高校生の私たちが今のうちに身に付けておくべき能力を教えていただいた。特に多くの方々がおっしゃっていた「日ごろから勉強する習慣」はすぐに実践できることなので意識していきたい。

最後に私たちのためにお忙しい中、お話をしてくださったディレクトフォースの方々、天野教授、東大生の方々、その他協力して下さった方々へ感謝するとともに、自分の目標に向かって努力し続けたいと思う。